



沢登健太郎主任  
診療放射線技師

# 医療最前線 現場を支える

県立中央病院から

(238)

査を行っている。来年度には最新機器への更新を予定。同院放射線部主任診療放射線技師の沢登健太郎さんは「安全性と診断の正確性を向上させ

放射線や電磁波を用いる画像検査は、がんなどの病気を発見し適切な治療につなげる有効な手段として知られている。山梨県立中央病院は検査前の確認作業や副作用への対応を徹底し、安全性の高い検

たい」と話している。

画像検査はレントゲンやコンピュータ断層撮影装置（CT）、磁気共鳴画像装置（MRI）などがあり、患者の状況に応じて使い分ける。エックス線や電磁波を用いるため、高度な専門性を持った診療放射線技師が検査を担う。

同院放射線部には28人の診療放射線技師が所属。各診療科の依頼を受けて検査を行い、得られた画像を解析して医師による確定診断や治療方針の確認に利用されている。

迅速な対応が求められる救急患者に備えて当直制も整備。がんの放射線治療に用いる機器も医師の指示の下で扱って

いる。「最も気を使っているのは安全性」。沢登さんはそう強調する。レントゲンやCTは必要以上に被ばくしないように線量を管理。MRIはペー

スメーカーが誤作動する原因となるなど金属製品が「御法

示してもらおうようにしている。レントゲン、CT、MRIの検査は年間で計10万件に及ぶ。特にさまざまな診療科でニーズが高まっているCTは

20年度が2万4412件となり、11年度（1万6920件）と比べて1.4倍まで増加した。

## 診療放射線技師 高度な専門性 画像検査 安全で正確に

度で、イラスト入りのチェックシートを用いて検査前に入念に確認している。画像検査で動脈瘤や病変を正確に把握するために必要な造影剤は、嘔吐やじんましんといった副作用が起きることがまれにある。このため、副作用が起きた患者向けにカードを作成し、次回検査時に提

載します。沢登さんは「機械が進歩しても人の目でチェックすることに変わりはない。医師や看護師との連携もさらに深め、正確な診断を支えたい」と話した。Ⅱ第2、4木曜日に掲

山梨県立中央病院  
主要画像検査件数の推移

